

## 栽培のポイント

### ◆ 播種量

「夏黄金」は分げつが旺盛で穂数が多いため、播種量が「ゆきちから」と同量以下になるよう播種機を調整してください。

### ◆ 追肥

「夏黄金」はパン・中華めん用として、高いタンパク質含有率が求められます。追肥は幼穂形成期・減数分裂期・穂揃期の3回を基本とし、特に、タンパク質含有率を高めるための穂揃期追肥は必ず行ってください。

### ◆ 踏圧（麦踏み）

「夏黄金」は遅れ穂が発生しやすい傾向があるため、麦踏みは越冬前1回・越冬後1～2回を目安に必ず行って下さい。  
遅れ穂が多いと、追肥の効果が低下します。

### ◆ 病虫害防除

赤かび病抵抗性は「ゆきちから」より強いですが、「中」程度の強さなので、赤かび病防除は、「ゆきちから」と同様に3回行ってください。

### ◆ 収穫

「夏黄金」は穂発芽しにくい特性がありますが、品質確保のため適期収穫に努めてください。

# パン・中華めん用小麦 「夏黄金」栽培マニュアル

## 宮城県の新しい小麦「夏黄金」

「夏黄金」は、東北農業研究センターが安定多収・高製粉性などを目標として、平成13年から育成を進めてきた小麦の品種です。現在、宮城県で作付けされている「ゆきちから」に代わる品種として、平成28年10月に宮城県の奨励品種として採用されました。  
少し赤みがかった黄金色の穂が特徴で、初夏に収穫時期を迎えた麦畑の美しいイメージが、名称の由来となっています。



ゆきちから 夏黄金

## 「夏黄金」の特徴

### ◆ 高い収量性と安定した品質

- 「夏黄金」は「ゆきちから」と比較して10%程度多収です。
- 外観品質も「ゆきちから」より優れています。

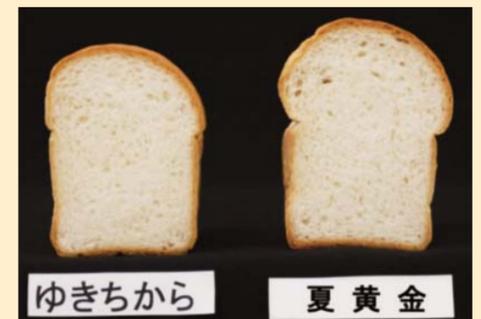
表 古川農業試験場における収量調査の結果(H24～28、H25～28平均)

試験地	古川農業試験場		現地調査	
	平成24～28年産		平成25～28年産	
試験年度	夏黄金	ゆきちから	夏黄金	ゆきちから
品種名	夏黄金	ゆきちから	夏黄金	ゆきちから
子実重(kg/a)	57.8	51.2	52.8	49.3
対標準比(%)	113	100	107	100
容積重(g/l)	828	815	789	792
千粒重(g)	38.6	39.0	36.8	38.7
外観品質※	2.7	3.5	3.5	3.8

(※ 品質をあらわす数値で、低いほど良いとされる)

### ◆ 優れた加工適性

- 原粒及び粉の灰分・たんぱく質含有率は「ゆきちから」と同程度です。
- パン生地にした際のコシが強いため、様々な種類のパン製造に適しています。
- 製パン試験でのパン体積及び製パン官能評価は、「ゆきちから」より年次変動が小さく安定しています。



食パンの比較  
(東北農業研究センターによる製パン試験)

発行 宮城県農政部みやぎ米推進課・古川農業試験場

### 【みやぎ米推進課】

〒989-8570  
宮城県仙台市青葉区本町三丁目8-1  
TEL:022-211-2841 FAX:022-211-2849

### 【古川農業試験場】

〒989-6227  
宮城県大崎市古川大崎字富国88  
TEL:0229-26-5106 FAX:0229-26-5102

本マニュアルの内容は、県ホームページでもご覧になれます。  
アドレス：<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/noenkan/mugi-daizu.html>

# 「夏黄金」栽培ごよみ

月旬	9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月														
	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中												
生育ステージ	出芽期												幼穂形成始期			幼穂形成期			節間伸長期			茎立期			減数分裂期			出穂期			穂揃期			開花期						成熟期		
主な作業	播種準備			播種			踏圧(越冬前)			踏圧(越冬後)			幼穂形成期追肥			減数分裂期追肥			穂揃期追肥			赤かび病防除(1回目)			赤かび病防除(2回目)			赤かび病防除(3回目)			赤かび病防除			収穫								
	← 土壤兼茎葉処理剤散布 →																																									

ほ場の準備	施肥及び播種	栽培管理	追肥	収穫及び乾燥調製														
<ul style="list-style-type: none"> <li>●排水対策                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・弾丸暗きよ 本暗きよに直交させ、2～3m間隔で施工する。</li> <li>・明きよ 10～30m間隔で施工し、排水路につなぐ。</li> </ul> </li> <li>●酸度矯正                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・土壌pH 6.0～7.0 土壤診断を行い、苦土石灰で矯正する。</li> </ul> </li> <li>●碎土率                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・70%以上 耕起は土壌水分が低いときに行う。</li> </ul> </li> <li>●有機物施用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・堆肥 1～2t/10a</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基肥(10a当たり成分量)                     <table border="0"> <tr> <td>窒素</td> <td rowspan="3">} 8～10kg</td> <td rowspan="3">※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。</td> </tr> <tr> <td>リン酸</td> </tr> <tr> <td>加里</td> </tr> </table> </li> <li>●播種適期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>北部平坦地域 10月10～20日</li> <li>南部平坦地域 10月20～30日</li> </ul> </li> <li>●播種量                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・10a当たり10kg</li> <li>・播種適期から遅れた場合は播種量を増やすが、多くても15kg以内とする。</li> </ul> </li> <li>●播種深                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・3cmを目安とする。</li> </ul> </li> </ul>	窒素	} 8～10kg	※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。	リン酸	加里	<ul style="list-style-type: none"> <li>●雑草防除 図1参照</li> <li>●赤かび病防除 図2参照</li> <li>●踏圧(麦踏み)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・越冬前 1回(3～4葉期)</li> <li>・越冬後 1～2回(融雪後～茎立期)</li> <li>・耐寒性強化、凍上害防止、生育均一化等のため、上記を目安に踏圧を行う。</li> </ul> </li> </ul> <p>※「夏黄金」は、遅れ穂の発生を抑制するため、必ず踏圧を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●追肥量(10a当たり窒素成分量)                     <table border="0"> <tr> <td>幼穂形成期</td> <td>2.5kg</td> <td>(硫安12kg)</td> </tr> <tr> <td>減数分裂期</td> <td>5.0kg</td> <td>(硫安24kg)</td> </tr> <tr> <td>穂揃期</td> <td>5.0kg</td> <td>(硫安24kg)</td> </tr> </table> </li> <li>●追肥時期の目安                     <ul style="list-style-type: none"> <li>幼穂形成期 幼穂長が2～3mm程度</li> <li>減数分裂期 幼穂長が30～50mm程度</li> <li>穂揃期 ほとんどの茎が出穂</li> </ul> </li> </ul> <p>※たんばく質含有率を高めるため、穂揃期追肥を必ず行う。</p>	幼穂形成期	2.5kg	(硫安12kg)	減数分裂期	5.0kg	(硫安24kg)	穂揃期	5.0kg	(硫安24kg)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●成熟期の判定                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・茎葉、穂首が黄化</li> <li>・子実のほとんどが指でつぶせない</li> </ul> </li> <li>●収穫適期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・子実水分30%以下(成熟期3日後頃から)</li> </ul> </li> <li>●乾燥                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・穀温が40℃を超えないよう送風温度を調整する。</li> </ul> </li> <li>●調製                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・篩目 2.4mm</li> <li>・子実水分 12.5%以下</li> </ul> </li> </ul>
窒素	} 8～10kg	※稲わらをすき込む場合は窒素成分を10～20%増やす。																
リン酸																		
加里																		
幼穂形成期	2.5kg	(硫安12kg)																
減数分裂期	5.0kg	(硫安24kg)																
穂揃期	5.0kg	(硫安24kg)																

## 雑草及び病害虫防除

図1 雑草防除体系 ※ ( ) 内は有効成分と使用回数

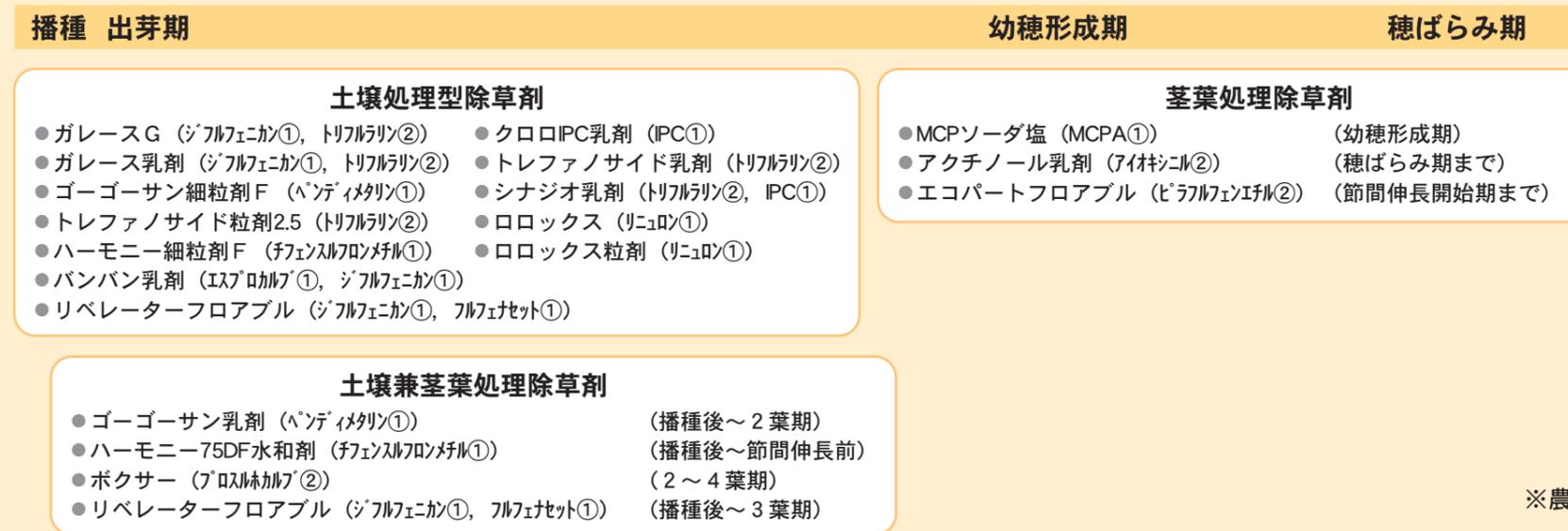
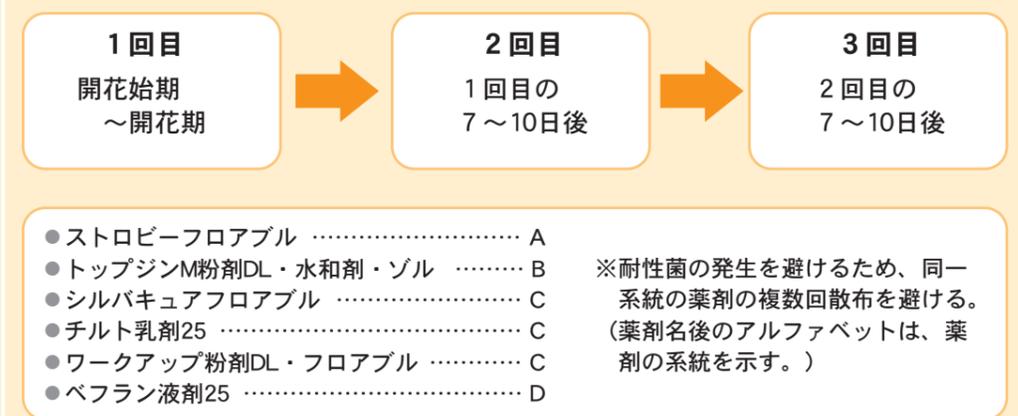


図2 赤かび病防除体系



※農薬登録は、平成30年9月12日現在のものです。最新の登録情報を確認してから使用してください。